

# 一般社団法人日本太陽エネルギー学会 第13回定時社員総会報告

一般社団法人日本太陽エネルギー学会第13回定時社員総会は2023年5月29日（月）午後2時から東京理科大学森戸記念館第1フォーラムにてオンライン会議を併用して開催された。

式次第は次の通り。

1. 開会の辞
2. 議事 第1号～第2号議案
3. 2022年（令和4年）度学会各賞受賞者の発表
4. 表彰式
5. 閉会の辞
6. 特別講演会

定款第15条により秋澤 淳会長が議長として開会を宣言した。続いて総会開催資格について太田 勇副会長より個人会員ならびに団体会員の正会員579個中、出席者22個、オンライン参加者60個、総会議長への委任305個、合計387個であり定款17条に定める正会員の1/3（193個）を超え、総会は成立した旨の報告がされた。

続いて書記、議事録署名人の選出に移った。議長より、書記に若尾真治副会長、議事録署名人に太田副会長にそれぞれお願いしたい旨の提案があり、挙手多数により選任された。続いて第1号議案から第2号議案の審議に入った。第1号議案「2022年度事業報告並びに決算報告に関する件」について若尾副会長より説明を受けた後、会計監査報告として、監事を代表して原 人志監事より「会計は適正に処理されている」旨の報告があった。議長が議案の賛否を問い、全員の賛成をもって承認された。

第2号議案「2023年度事業計画並びに予算に関する件」について若尾副会長より説明の後、議長が議案の賛否を問い全員の賛成をもって承認された。

続いて若尾表彰委員会委員長より2022年度の学会各賞の受賞者が報告された後、表彰式を執り行っ

た。功労賞として、理事を9期務められた小西正暉氏（元キヤノン）に記念の盾が贈呈された。2022年度論文賞として、立命館大学の菱川善博氏、東京理科大学の寺島康平氏、慶應義塾大学の佐藤春樹氏、産業技術総合研究所の西田竹志氏に表彰状と記念のメダルが贈呈され、総会は午後3時に終了した。

特別講演として、慶應義塾大学名誉教授・東京海洋大学客員研究員の佐藤春樹氏から「人類のSDGsに資する自然工学の提案「地球温暖化対策」と「エネルギー利用について」、近畿大学教授の鈴木高広氏から「地球温暖化対策のゲームチェンジャー（国土の8%の面積に降り注ぐ太陽光をイモ・メタン・水素に変換すれば化石燃料を全廃し地方経済が潤い少子高齢化問題も解決できる）」と題して2件の講演をいただいた。

佐藤氏の講演では、森林減少による地球規模の炭素・水・エネルギーの循環が病んでいるとの指摘をいただくと共に、エクセルギーを用いた太陽エネルギーの有効利用についてご講演をいただき、鈴木氏の講演では、地球温暖化の現状と地震の多発化、紫外線とバイオマス・化石燃料の関係、芋・メタンの大量生産について、その優位性について解説いただいた。



功労賞受賞の小西正暉氏



論文賞受賞の西田竹志氏



太和田賞創設者の太和田善久氏（左）と太和田賞受賞の菱川善博氏（右）



押田賞受賞の佐藤春樹氏（左）と寺島康平氏（右）

(第1号議案) 2022年度事業報告並びに決算報告

# 一般社団法人日本太陽エネルギー学会 2022年度(令和4年度)事業報告

自: 2022年4月1日

至: 2023年3月31日

## 1. 第12回定時社員総会

期日: 2022年5月26日(木)

会場: NATULUCK 神田北口駅前店3階会議室にてオンライン会議を併用して開催した。

議事:

- (1) 2021年度(令和3年度)事業報告並びに決算報告、剰余金処分の件、会計監査報告の承認に関する件
- (2) 2022年度(令和3年度)事業計画並びに予算案の承認に関する件
- (3) 法人7期役員選出の件
- (4) 表彰 担当: 表彰委員会(委員長: 秋澤 淳)  
次の方々に各学会賞を贈り表彰した。(敬称略)

### 1) 2021年度 功労賞

須永修通(東京都立大学名誉教授)

### 2) 2021年度 論文賞

標題「連続する太陽光エネルギー低資源量日の発生頻度と同時発生範囲の評価」掲載号 Vol.47, No.4 (264号)

渡邊武志, 岡 和孝, 肱岡靖明(国立環境研究所)

### 3) 2021年度 奨励賞(一般部門) 該当なし

### 4) 2021年度 奨励賞(学生部門) 4編

標題「Ge シード技術を活用した多結晶 GaAs 膜のガラス上合成と粒径一分光感度の相関解明」

西田竹志(筑波大学)

標題「ペロブスカイト太陽電池の発電層結晶形成における塩素添加物の効果に関する研究」

高橋冴実(東京大学)

標題「ニューラルネットワークを用いたストリング I-V カーブによる太陽光発電システムの複合不具合検出」

高橋芳輝(東京理科大学)

標題「電析法によって調製した Ru/TiO<sub>2</sub> 触媒を用いた低温常圧下における電気化学的窒素還元」

今野龍刀(東京工業高等専門学校)

### 5) 2021年度 若手研究発表会奨励賞 4編

標題「固体高分子形燃料電池の触媒電極膜の最適化」

田鍋舞斗(兵庫県立大学)

標題「実大実験棟を用いた潜熱蓄熱材敷設の効果検証およびシミュレーション」

季 思雨(東京大学)

標題「両面受光型太陽電池の発電量への影とクラスタの影響」

佐戸佑気(福井大学)

標題「大規模太陽光発電所におけるモジュール動作点密度を用いた故障ストリング検出」

谷名香里(東京理科大学)

標題「短絡故障バイパスダイオードの I-V 特性とその故障抵抗値の分布」

平田 航(津山工業高等専門学校)

## 2. 理事会

第69回理事会 2022年5月10日

第70回理事会 2022年5月26日

第71回理事会 2022年7月6日

第72回理事会 2022年9月6日

第73回理事会 2022年11月9日

第74回理事会 2023年1月13日

第75回理事会 2023年1月27日(メール審議)

第76回理事会 2023年3月9日

## 3. 各種委員会活動

### 3.1 事業委員会(委員長: 佐川耕平)

(1) 「電気自動車・燃料電池車・ソーラーカー製作講習会 - エコカー開発を担う人材の増強を目指す -」

2023年2月25日東海大学東京キャンパス高輪校舎オンライン併用開催 参加者: 209名

### 3.2 広報委員会(委員長: 桶真一郎)

(1) 「第17回再生可能エネルギー世界展示会」(協賛) 2022年2月1日~3日 東京ビックサイト アカデミックコーナーに出展し研究発表会や出版物の紹介を行った。

(2) 会員専用 HP で1999年以降の研究発表会発表資料がダウンロードできるようになった。また通巻267号の記事からカラー化して掲載している。

(3) ウェブメディア「みんなの試作広場」に掲載する太陽エネルギー利用の基礎知識（10回連載）の第9回、10回を執筆し掲載した。現在みんなの試作広場が閉鎖されているので再掲に向けて調整中。

(4) 団体会員名簿および教育委員会による動画教材「学習・教育用ライブラリー／入門編Ⅰ：太陽と地球と太陽エネルギー」をHPに掲載した。

### 3.3 学会誌編集委員会（委員長：城石英伸）

(1) 学会誌「Journal of Japan Solar Energy Society（太陽エネルギー）」発刊

Vol.48, No.3 269号 2022年5月（102頁）

Vol.48, No.4 270号 2022年7月（130頁）

Vol.48, No.5 271号 2022年9月（120頁）

Vol.48, No.6 272号 2022年11月（86頁）

Vol.49, No.1 273号 2023年1月（106頁）

Vol.49, No.2 274号 2023年3月（114頁）

以上、通巻269号から274号を発行した。

(2) 研究論文は11編を掲載した。

(3) 太陽光発電部会セミナーの講演要旨、各部会対応の学会誌特集記事を掲載した。

### 3.4 研究発表会運営委員会（委員長：野村裕宗）

(1) 2022年度日本太陽エネルギー学会研究発表会を以下のとおり開催した。

開催日：2022年11月10日（木）～11日（金）

会場：福井県国際交流会館

参加登録者数：151名 一般講演論文：93件

見学会：2022年11月9日（水）参加者21名

一乗谷朝倉氏遺跡／北陸電力富田発電所（水力）

(2) 2023年度研究発表会開催地

会場：エブノ泉の森ホール（泉佐野市）

開催日：2023年11月16日（木）～17日（金）

見学会：2023年11月15日（水）

懇親会：2023年11月16日（木）

### 3.5 学会活性化委員会（委員長：植田 譲）

若手研究者に自由な発表の場を提供することを目的として第3回若手研究発表会を以下のとおり開催した。

2022年8月12日（金）オンライン開催 参加者36名

10名の発表者の中から若手研究発表会奨励賞を2名に授与した。（各賞受賞者は別掲）

標題「大粒径 InGaAs 膜のプラスチック上合成技術と近赤外分光感度の実証」

西田竹志（筑波大学）

標題「部分影の移動に伴う FF の変化に基づく短

絡故障バイパスダイオードの検出」

祐森 柁（津山工業高等専門学校）

### 3.6 表彰委員会（委員長：若尾真治）

(1) 2022年度の奨励賞は一般部門5件、学生部門39件の申請に対して以下の通り選考し推薦した。奨励賞（一般部門）は該当者なし。

奨励賞（学生部門）は9名を選考し推薦した。

(2) 功労賞は1名を選考し推薦した。

(3) 論文賞については3編を選考し推薦した。

(4) 学会賞は応募なし。

（各賞受賞者は別掲）

### 3.7 国際交流委員会（委員長：松原弘直）

(1) ISES / KSES との交流再開に向けた準備を進めている。

### 3.8 教育委員会（委員長：大竹秀明）

(1) 学習・教育用ライブラリーとして「入門編Ⅰ：太陽と地球と太陽エネルギー」を2022年4月に公開した。

(2) 「入門編Ⅱ：再生可能エネルギーとその起源」を準備中

(3) JSES 有識者へのインタビュー形式で3分程度の教育ビデオ2本を準備している。

### 3.9 脱炭素社会推進会議（担当理事：太田 勇）

(1) 定例会議へ参加した。

## 4. 部会活動

### 4.1 太陽熱部会（部会長：盧 炫佑，原 人志）

(1) グランド再生可能エネルギー2022国際会議（GRE2022）における太陽熱分野に関する企画運営協力

（2022年12月13日～20日／オンライン）

(2) 学会誌の解説記事として「省エネ性能判定プログラム（Webプログラム）の改正に向けた取り組み」を273号に執筆した。

(3) 予定していた「エコプロ2022」出展、PVTセミナーの開催は中止した。

### 4.2 太陽光発電部会（部会長：宮本裕介）

(1) 第33回セミナー「太陽光発電と地域共生」

2022年4月19日オンライン開催 参加者：110名

(2) 第34回セミナー「再生可能エネルギー分野で活躍する女性たち」

2022年8月2日オンライン開催 参加者：81名

(3) 学会誌の特集記事として気象・環境セミナー「気候変動」特集を268号に、「太陽光発電と地域共生セミナー」特集を271号に「再生可能エネル



ギー分野で活躍する女性たちセミナー」特集を272号に企画した。

#### 4.3 光化学・バイオマス部会（部会長：渡邊康之）

- (1) ウェブメディア「みんなの試作広場」第9回「水素エネルギーとは、製造プロセスの種類による色分けや利用形態を分かり易く解説」執筆。
- (2) 学会誌の特集記事として「CCU特集Ⅱ 脱炭素社会の実現に向けて」を269号に、「CCU特集Ⅲ カーボンリサイクルの技術紹介」を273号に、「燃料電池材料研究の最前線」を274号に、「バイオマス・廃棄物資源の燃焼技術」を275号に、解説記事として「リチウム空気電池の現状と展望」を274号に企画した。
- (3) 予定していた見学会、講演会は中止した。

#### 4.4 ソーラー建築部会（部会長：太田 勇）

- (1) ソーラー建築に特化したガイドブック作成と講座立ち上げを企画し、出版に向けた準備を継続している。
- (2) 学会誌の特集記事として「既存建築の有効利用～リユース・リノベーションと脱炭素～」を269号に企画した。
- (3) 予定していたソーラー建築見学会は中止した。

#### 4.5 風力・水力部会（部会長：吉田茂雄）

- (1) 学会誌の特集記事として「海洋再生可能エネルギーの動向・展望」を276号に、「洋上風力発電の動向・展望」を277号に企画した。

#### 4.6 100%再生可能エネルギー部会（部会長：秋澤 淳）

- (1) 研究発表会におけるオーガナイズドセッション企画  
2022年11月12日 福井県国際交流会館
- (2) ウェブメディア「みんなの試作広場」第10回「再生可能エネルギーの導入ポテンシャルから日本の地域毎の再エネ政策を考えてみる」執筆。

- (3) 学会誌の特集記事として「FIT 制度開始からの10年を振り返り、今後を展望する」を270号に企画した。

#### 5. 関西支部の活動（支部長：原田真宏）

- (1) 幹事会  
第1回幹事会：2022年6月9日  
第2回幹事会：2022年9月15日  
第3回幹事会：2023年1月19日
- (2) 見学会 京セラファイブセラミック館  
2022年9月2日 参加者9名
- (3) 2022年度関西支部シンポジウム  
「光エネルギー利用技術の最新動向」  
2022年12月7日 甲南学園セミナーハウス・オンライン併用開催 参加者：46名  
本シンポジウムの講演内容を学会誌275号の特集記事として企画した。
- (4) 研究室探訪は中止した。

#### 6. 会員推移

今年度の会員数推移は下記の通りとなった。

- ・当期（2022年度）新入会員  
個人会員17名、学生会員42名、シニア会員4名

- ・当期末（2023年3月31日）の会員数

終身会員	17名
個人会員	457名
学生会員	41名
シニア会員	29名
合計	544名

学校会員	1校
団体会員	30団体

## 2022年度（令和4年度）一般会計収支報告

自：2022年4月1日 至：2023年3月31日

### 一般会計

#### 収入の部 (単位：円)

科目	予算	実績
前年度繰越金	6,349,776	6,349,776
会費	11,596,400	10,989,200
学会誌・書籍	1,897,000	1,443,408
雑収入	210,000	9,145
研究発表会	1,840,000	1,885,554
各種事業・部会等	1,347,000	1,045,672
当期収入	16,890,400	15,372,979
合計	23,240,176	21,722,755

#### 支出の部 (単位：円)

科目	予算	実績
会議費	520,000	287,361
学会誌他印刷費	4,410,000	4,948,435
賛助会費	123,500	123,500
研究発表会	905,000	1,467,385
見学会・講演会	3,090,000	520,180
維持経費	3,090,012	3,282,459
人件費	6,550,000	6,486,733
法人税	70,000	70,000
税理事務所報酬	528,000	528,000
当年度支出計	19,286,512	17,714,053

### 特別会計（出版事業）

#### 収入の部 (単位：円)

科目	予算	実績
前年度繰越金	0	0
書籍売上	150,000	172,260
合計	150,000	172,260

#### 支出の部 (単位：円)

科目	予算	実績
販売経費（パンフ・送料等）	10,000	4,268
期首棚卸し資産	433,500	433,500
期末棚卸し資産	229,500	280,500
合計	214,000	157,268
次年度繰越金		0

### 貸借対照表（2023年3月31日）

(単位：円)

資産の部		負債・純資産の部	
科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金	527,550	未払い金	61,622
普通預金	16,105,900	前受け金	4,225,668
定期預金	12,222,600	預かり金	43,356
2. 出版物棚卸し資産	280,500	負債の部合計	4,330,646
3. 立替金	0	III. 純資産の部	
4. 前払い費用	0	1. 別途積立金	20,955,232
5. 未収入金	173,022	2. 繰越利益剰余金	
流動資産合計	29,309,572	前期繰越利益	6,349,776
		当期利益	-2,326,082
		( 次年度繰越金	4,023,694)
		純資産の部合計	
合計	29,309,572	合計	29,309,572

## 損益計算書

自：2022年4月1日 至：2023年3月31日

### 収入の部

(単位：円)

項 目	非収益事業	収益事業	合 計	備 考
1. 会費収入	10,989,200		10,989,200	
2. 事業収入	2,788,165	1,767,874	4,556,039	
学会誌		1,443,408	1,443,408	定期購読・論文掲載・広告
書籍		175,888	175,888	ハンドブック
各種部会講演会・見学会	461,004		461,004	含関西支部
ソーラーカー講習会	498,540	82,500	581,040	東海大学(オンライン併用)開催
研究発表会登録費等	1,347,110		1,347,110	福井開催
見学会・懇親会等	147,000		147,000	
論文集売上げ・広告		57,200	57,200	
助成金	334,244		334,244	
雑収入・その他	0	0	0	
著作権料		8,844	8,844	
特別会計収入(表彰資金)	0	0	0	
受取利息	267	34	301	
合 計	13,777,365	1,767,874	15,545,239	

### 支出の部

管理費は非収益事業と収益事業収入から按分した

項 目	非収益事業	収益事業	支出合計	備 考
1. 事業支出	2,110,578	12,367	2,122,945	
諸会費(交付金・協賛金)	123,500		123,500	ソーラーシステム振興協会
雑費	11,880		11,880	会費引落し/ニコス事務手数料
部会支出	202,309		202,309	含関西支部
ソーラーカー製作講習会	317,871		317,871	東海大学(オンライン併用)開催
研究発表会開催費	951,405		951,405	福井開催
研究発表会見学会等	108,320		108,320	
論文集CDROM製作費	395,293	12,367	407,660	
2. 管理費	13,784,302	1,894,074	15,678,376	
職員給与	5,458,849	700,465	6,159,314	
福利厚生費・法定福利費	118,811	15,247	134,058	業務災害補償保険
広告費(ホームページ他)	124,982	27,038	152,020	
会議費(総会・理事会)	130,534		130,534	
会議費(その他)			0	
通勤交通費	227,463	29,188	256,651	
通信費	301,616	38,703	340,319	電話料・郵送料等
消耗品・雑費	159,320	20,445	179,765	含振込手数料, コピー料
水道光熱費	89,367	11,468	100,835	
賃借料	1,399,655	179,601	1,579,256	
リース料	715,750	91,844	807,594	
学会誌制作費	4,385,675	562,760	4,948,435	原稿料・封筒代含む
書籍印刷・発送費		157,268	157,268	
支払い報酬(会計事務所)	467,953	60,047	528,000	
学会賞	156,827		156,827	
貸倒損失	47,500		47,500	2021年度会費回収不能額
合 計	15,894,880	1,906,441	17,801,321	
税引前当期利益	▲ 2,117,515	▲ 138,567	▲ 2,256,082	
法人税・住民税・事業税		70,000	70,000	2022年度事業税
当期純利益	▲ 2,117,515	▲ 208,567	▲ 2,326,082	

会計監査報告

## 2022 年度(令和 4 年度) 会計監査報告書

一般社団法人日本太陽エネルギー学会  
会長 秋澤 淳 殿

一般社団法人日本太陽エネルギー学会 2022 年度(令和 4 年度)(2022 年 4 月 1 日より 2023 年 3 月 31 日)の収支決算報告書について一般社団法人日本太陽エネルギー学会定款第 41 条に基づき、決算書、帳簿、伝票、証憑書類を監査した結果、適正に処理、記載されていることを確認した。

2023 年 5 月 10 日

監事 相曾一浩

監事 原 人志

(第 2 号議案) 2023 年度事業計画

## 一般社団法人日本太陽エネルギー学会 2023 年度(令和 5 年度) 事業計画

自：2023 年 4 月 1 日

至：2024 年 3 月 31 日

### 1. 第 13 回定時社員総会

期日：2023 年 5 月 29 日(月)

会場：東京理科大学森戸記念館第 1 フォーラム  
オンライン併用開催。

議事

- (1) 2022 年度(令和 4 年度) 事業報告並びに決算報告、剰余金処分の件、会計監査報告の承認に関する件
- (2) 2023 年度(令和 4 年度) 事業計画並びに予算案の承認に関する件
- (3) 2022 年度学会各賞選考結果報告
- (4) 特別講演会

「人類の SDGs に資するエネルギー利用自然工学の提案」 慶應義塾大学 名誉教授 佐藤春樹氏  
「地球温暖化対策のゲームチェンジャー；国土の 8%の面積に降り注ぐ太陽光をイモ・メタン・水素に変換すれば化石燃料を全廃し地方経済が潤い少子高齢化問題も解決できる」

近畿大学 教授 鈴木高広氏

### 2. 理事会

6 回/年 開催し、遅滞なく業務を執行する。

### 3. 各種委員会

#### 3.1 事業委員会(委員長：佐川耕平)

- (1) ソーラーカー製作講習会は東日本地区で開催を企画する。

#### 3.2 広報委員会(委員長：桶真一郎)

- (1) 「第 18 回再生可能エネルギー世界展示会 & フォーラム」(2024 年 1 月 31 日～2 月 2 日) アカデミックコーナーで本会の活動内容を PR する。
- (2) ホームページの会員向けサービスの充実ならびに非会員向けに学会活動の PR を図る。

#### 3.3 学会誌編集委員会(委員長：城石英伸)

- (1) 学会誌「Journal of Japan Solar Energy Society」を Vol.49, No.3(通巻 275 号)～Vol.50, No.2(通巻 280 号)までの 6 回発行する。各号特集記事の充実を図る。
- (2) 太陽エネルギー利用に関連する教育講座や国際会議報告、研究室紹介等を掲載し、幅広い会員に親しめる学会誌編集を行う。
- (3) これまで区別があいまいであった「研究論文」「技術論文」を「研究論文」に統合し、新たに査読 1 回の「技術報告」のカテゴリーを新設するよう検討する。

#### 3.4 国際交流委員会(委員長：松原弘直)

ISES, KSES との相互交流の具体策を検討し実施

する。

### 3.5 研究発表会運営委員会（委員長：野村裕宗）

(1) 2023年度 JSES 研究発表会を「エブノ泉の森ホール」において2023年11月16日(木)～17日(金)に開催する。

(2) 見学会・懇親会の開催も予定する。

### 3.6 学会活性化委員会（委員長：植田 譲）

若手研究者とベテラン研究者との有益なディスカッションを期待して JSES・若手研究発表会を7月28日(金)にオンライン開催する。優れた発表には「若手研究発表会奨励賞」を贈呈する。

### 3.7 学会規程委員会（委員長：松尾廣伸）

各種規程の整備、見直し、改定を推進する。

### 3.8 表彰委員会（委員長：若尾真治）

(1) 「論文賞」(太和田賞, 押田賞を含む), 「奨励賞」, 「功労賞」「学会賞(学術部門)」「学会賞(技術部門)」「若手研究発表会奨励賞」の受賞者を選考し, 研究開発ならびにその実用化促進に関する優れた業績を顕彰する。

(2) フェロー認定は年1回の総会に合わせて5月の理事会で審査・認定する。

### 3.9 教育委員会（委員長：大竹秀明）

(1) 教育ビデオ「入門編Ⅱ：再生可能エネルギーとその起源」をHPで公開する。

(2) JSES 有識者へのインタビュー形式の教育ビデオ2本をHPで公開する。

## 4. 各種部会

会員相互交流の他, 新規会員の拡充を図るため, 各部会において勉強会, セミナー等を企画運営する。

### 4.1 太陽熱部会（部会長：原 人志）

(1) 「第18回再生可能エネルギー世界展示会」(2024年1月31日～2月2日 東京ビッグサイト)への企画運営への協力。

(2) 「エコプロ2023」出展(2023年12月6日～8日/東京ビッグサイト)

(3) ソーラー建築ガイドブック編集への協力

(4) 産業用および大規模太陽熱利用に関する検討会を開催する。

### 4.2 太陽光発電部会（部会長：宮本裕介）

(1) 第35回セミナー「太陽光発電とAIの基礎・応用」 4月17日 オンライン開催

(2) 第36回セミナー「太陽電池の廃棄・リサイクル」(実施時期未定)を予定する。

(3) 学会誌特集記事として「太陽光発電とAIの基礎・応用」を276号に企画する。

### 4.3 光化学・バイオマス部会（部会長：渡邊康之）

(1) 学会誌特集記事として「バイオマス・廃棄物資源の燃焼技術」を275号に企画する。

### 4.4 ソーラー建築部会（部会長：太田 勇）

(1) ソーラー建築に特化したガイドブック作成と講座立ち上げ企画を推進する。

(2) ソーラー建築見学会はコロナ収束状況を鑑みながら再開を検討する。

### 4.5 風力・水力部会（部会長：吉田茂雄）

(1) 学会誌の特集記事として「海洋再生可能エネルギーの動向・展望」を276号に, 「洋上風力発電の動向・展望」を277号に企画する。

### 4.6 100%再生可能エネルギー部会（部会長：秋澤 淳）

(1) 外部団体(コージェネ財団)との連携によるバイオマス燃料利用をテーマとするセミナー(2023年6～7月)を予定する。

(2) 外部団体(共生エネルギー社会実装研究所)との連携により, 今後の太陽光発電と地域との関わりをテーマとするシンポジウム(2023年9～10月頃)を予定する。

(3) 研究発表会におけるオーガナイズドセッションを企画する(2023年11月16～17日)。

(4) 再生可能エネルギー利用を実装したZEBやその他施設の見学会(福島県いわき市, 実施時期未定)を予定する。

(5) 100%再生可能エネルギー化に関する勉強会(年3回程度の開催)を企画する。

## 5. 関西支部の行事（支部長：原田真宏）

見学会, シンポジウム等を開催し関西地区会員の啓発活動を行う。

(1) 見学会(2023年9月実施予定)

(2) シンポジウム(2023年12月開催予定)

(3) 第3回研究室探訪(2023年10月頃に実施予定)

(4) 幹事会3回/年を実施する。

## 6. 会員増加と財務基盤強化

各種委員会・各種部会を通じ個人会員, 団体会員の増加を図る他, 講演会やセミナー等の事業を強化する。また, 論文投稿の促進策を検討・実施することにより個人会員, 学生会員の増加を図る。

また学会誌の誌面充実による新規購読者の獲得, 学会誌広告掲載を増強して経営の安定化ならびに財務基盤の強化を図る。



## 2023 年度（令和 5 年度）収支予算計画

自：2023 年 4 月 1 日 至：2024 年 3 月 31 日

### 一般会計

#### 収入の部 (単位：円)

科目	予算
前年度繰越金	4,023,694
会費	11,446,400
学会誌	1,949,400
研究発表会	2,446,000
各種事業・講演会	1,335,000
雑収入	360,000
当年度収入計	17,536,800
合計	21,560,494

#### 支出の部 (単位：円)

科目	予算
会議費	700,000
学会誌	4,292,000
賛助会費	123,500
研究発表会	1,227,000
各種事業・講演会	3,187,000
維持経費	3,290,300
人件費	6,519,000
事業税等	70,000
税理事務所報酬	528,000
当期支出計	19,936,800
次年度繰越金	1,623,694
合計	21,560,494
正味財産増減額	▲ 2,400,000

### 特別会計

#### 1. 出版事業

#### 収入の部 (単位：円)

科目	予算
前年度繰越金	0
書籍売上	150,000
合計	260,124

※ソーラー建築部会出版費用 2,400,000 円を計上

#### 支出の部 (単位：円)

科目	予算
販売経費	10,000
期首棚卸し資産	280,500
期末棚卸し資産	2,527,500
合計	△ 2,237,000
次年度繰越金	2,387,000

※ソーラー建築部会出版物を棚卸し資産に計上

### 関西支部 2022 年度収支報告

#### 収入の部 (単位：円)

科目	予算	実績
前期繰越金	533,826	533,826
交付金	0	0
見学会参加費	10,000	0
シンポジウム参加費	100,000	85,000
研究室探訪	0	0
その他（利子）	0	4
合計	643,826	618,830

### 関西支部 2023 年度収支予算計画

#### 収入の部 (単位：円)

科目	実績
前期繰越金	508,500
交付金	0
見学会参加費	10,000
シンポジウム参加費	100,000
研究室探訪	0
その他（利子）	0
合計	618,500

#### 支出の部 (単位：円)

科目	予算	実績
幹事会会議費（3 回分）	150,000	32,610
見学会経費	0	0
シンポジウム経費	50,000	77,720
研究室探訪（3 回分）	40,000	0
その他（振込料）	0	0
合計	240,000	110,330
次期繰越金	403,826	508,500

#### 支出の部 (単位：円)

科目	実績
幹事会・研究会	150,000
見学会経費	0
シンポジウム経費	80,000
研究室探訪（2 回分）	40,000
その他	0
合計	270,000
次期繰越金	348,500

## 2022 年度（令和 4 年度）功労賞・学会各賞 受賞者（敬称略）

### 1. 2022 年度 功労賞

小西正暉（太陽光発電技術研究組合 元キヤノン株式会社）

### 2. 2022 年度 最優秀論文賞（太和田賞）

論文標題「Imp, Vmp 常時監視による PV 性能評価・動作診断技術」

掲載号 Vol.48, No.3（269 号）

菱川善博, 吉田正裕, 千葉恭男（産業技術総合研究所）, 岡島敬一（筑波大学）

### 3. 2022 年度 押田賞

論文標題「環境調和型 PV/T ソーラーパネルの導入によるゼロ・エネルギー・ハウス（ZEH）の提案」

掲載号 Vol.48, No.2（268 号）

寺島康平, 佐藤春樹（慶応義塾大学）

### 4. 2022 年度 論文賞

論文標題「Ge シード粒径制御技術を用いた多結晶 GaAs 膜のプラスチックフィルム上合成」

掲載号 Vol.48, No.4（270 号）

西田竹志（筑波大学）

### 5. 2022 年度 奨励賞

【一般部門】 該当者なし

【学生部門】

論文 No. 9 B のイオン注入法による p-BaSi<sub>2</sub> 膜の作製および太陽電池応用

青貫 翔（筑波大学）

論文 No. 14 エネルギー効率向上のための蓄電システムの導入によるディーゼル発電小規模実験

野田靖仁（静岡大学）

論文 No. 35 PV 電力平滑化制御による電力系統の需給制御への影響評価

中橋大河（岡山大学）

論文 No. 49 夏季のオープンクーリングによる住宅の室内気候 その 1  
札幌にあるモデル住宅の実測調査

熊谷菜花（札幌市立大学）

論文 No. 52 Experimental study on insulation performance of structured-core transparent  
vacuum insulation panels for different core materials

Erkki Hirvonen（北海道大学）

論文 No. 54 2重の複合放物面を持つ太陽集光器の最適設計

富井滉介（東京農工大学）

論文 No. 80 Auto-Encoder を用いたエリア PV 出力予測における時系列情報の導入に関する一考察

森 友輔（早稲田大学）

論文 No. 87 パラメータアンサンブルによる予測値のばらつきを用いた日射量予測大外し予見

河合美咲（名古屋大学）

論文 No. 98 ヘルシナイト多孔体による炭酸ガス熱化学分解実験

小山佳子（新潟大学）

## 6. 2022年度 若手研究発表会奨励賞

No.3 大粒径 InGaAs 膜のプラスチック上合成技術と近赤外分光感度の実証

西田竹志（筑波大学）

No.9 部分影の移動に伴う FF の変化に基づく短絡故障バイパスダイオードの検出

祐森 柁（津山工業高等専門学校）